

## 2020 年度『学会賞』選考結果

学会賞選考委員会委員長  
谷口祥一

三田図書館・情報学会賞は、会誌である Library and Information Science に掲載された優れた論文に与えられる賞です。本年度は 82 号と 83 号に掲載された原著論文 4 編を対象に厳正な審査を行った結果、以下の論文を学会賞として選考しました。

---

吉澤小百合. 学校図書館専門職養成の構造的な特徴と課題：セクター及びアクター間の関係性の視点から. Library and Information Science. 2020, no.83, p.1-24.

### [授賞理由]

本論文は、司書教諭および学校司書という学校図書館専門職の養成の制度化について、学校図書館法の成立期と 2 度の改正期におけるセクターおよびアクター間の関係性を歴史的に分析し、その構造的な特徴と課題を明らかにしたものである。これまでも学校図書館専門職養成の制度化を取り上げた研究の蓄積があるが、専門職養成を構造的に分析し、セクターおよびアクター間の特にパワーポリティクスという関係性の観点からマクロに整理した研究は皆無に等しく、その意義は大きい。

本論文は橋本鉦市による日本的専門職養成に関する先行研究に依拠し、学校図書館専門職養成の法改正等に関わる 4 つのセクターである「国家」、「高等教育機関」、「専門職団体」、「現場・施設」を取り上げ、そのアクター間の関係性を的確に分析している。加えて、「企業」、「市民」という、新たなセクターにも目配りし、上記セクターとの関係性を併せて分析した点においても大きな新規性がある。また、研究対象とした時期の膨大な関連資料を精査し、そこから上記の関係性を綿密かつ実証的に検証している。各セクターに属する主要なアクター数からしても、精査された資料の膨大さをうかがいしることができる。そして、分析の結果、学校図書館専門職養成にかかわる構造的な特徴として 4 点、併せて構造的な課題として 4 点を明らかにしている。これらは、部分的にせよ関係者および研究者の間で暗黙に了解され共有されてきた構図を包含した、学校図書館専門職養成に関与するセクターおよびアクター間の特有の関係性を実証した重要な成果である。論文全体を通して客観的な視点からの分析と慎重な記述がなされており、この点においても優れた論文と評価される。他方、セクターによっては、一次資料に類するものの掘り起こしが十分ではなく、これまでも知られている団体の公式見解の再整理にとどまっていると見えなくもない部分もある。そのため、アクターの抽出やその分析が不十分と受け止められる箇所も見られる。しかしながら、この点を考慮しても、今後の学校図書館専門職養成に関わる議論と研究を一層促進させる契機になる成果として、本論文の成果は重要であり、学会賞にふさわしいと判断した。